

「歩かせてくれてありがとう」
ゴールの瞬間出たのは
感謝の言葉



20時間53分
995人中204位
70歳以上の参加者
15人(完歩者8人)

株式会社ザ・ワークス

代表取締役 井上隆寿

住 西条市喜多川662-1 ☎ 0120-8787-15

今年の5月に行なわれた「晴れの国おかやま24時間100キロ歩行」完歩おめでとうございます。
井上…ありがとうございます。

このイベントはその名の通り、24時間以内に100キロを歩くというもの。71歳での挑戦は大変だったのではないですか？

井上…私は、幼少期から体が弱くて、肺活量は人の半分しかないし、心臓病、心筋梗塞、脳梗塞を経て今があります。1回目のときは、妻は大反対でした。心配というより「歩ける体じゃない!」と。

そんななか、100キロ歩行に参加しようと思ったきっかけを教えてください。

井上…まず、6年前に「石鎚山に登りたい」と思い立ちました。すぐには挑戦できず、その3年後にまずは八堂山に登りました。初めて登ったときは、普通の人だったら20分ほどの距離を1時間50分かけてやっと登る状態でした。それから1年後には20分で登れるようになり、石鎚山にも無事登頂できました。そのころちょうど、私の周りで100キロ歩行に挑戦して人生が変わったという話を聞くようになっていました。なので、石鎚登山の次の目標として「100キロ歩行に行きたい」と思ったのは自然な流れでした。

じつは昨年も挑戦されていて、そのときは惜しくも87キロ地点でリタイアとなってしまったそうぞう

すね。

井上…はい、悔しかったですね。でも、終わってすぐは、しんどいし、もうやめようと思いました。ですが、2カ月もすると忘れてしまって、またやるらう!と(笑)周囲の人たちは、87キロでもすごいと褒めてくれましたが、自分としてはとても悔しくて、恥ずかしかったというのも大きいです。

2回目の挑戦である今年、参加者約1000人のうち204位、20時間53分で完歩。何か戦略を立ててのぞまれたのでしょうか。

井上…今回は各所で休まず、80キロまではトイレ休憩以外は座りませんでした。あとは若い人たちに聞いていくコバンザメ歩行をしました。60キロ地点で大雨大風に見舞われ、休むかどうか迷いましたが、そのまま歩くことにしたのは大きな決断でした。きつい局面だったんですが、後で計算してみたら、毎時5.7キロという一番速い速度で歩いていました。しかし、終わってみて思うのは、戦略2割、マインド8割だな。最後は心だったと思います。苦しいときは、悪いことは考えないようにして、もうひたすら「ありがとう」と「般若心経」と「延命十観音経」の唱和をしていました。すると不思議なことに、いままでのうれしかったこと、ありがたかったことが次々と浮かんできました。今年は社員10人が岡山まで応援にきてくれて、途中で声をかけてくれたことも、うれしかったです。

です。

一番きつかったのはどこでしたか？

井上…ゴール3キロ前は意識が朦朧としていました。しかし、河川敷にゴールが見えてきたとき、少し元気になりました。進むうち、胸が熱くなって涙があふれてきました。

ゴールしたときの気持ちを教えてください。

井上…「自分よくやった」という誇らしい気持ちになるかと思っていたのですが、「歩かせてくれてありがとう」という感謝だけでした。今まで関わってくれたみんなに心の底からありがとうという気持ちになりましたね。感謝ということは常々言っていました。今までは心の底から理解できてなかったと思います。

今後の目標を教えてください。

井上…今年の最高齢参加者は81歳だそうです。私もそこまでやり続けたいと思います。

